

エリア	プロジェクト	取組	2022年度実施計画	実施内容	2022年度の進捗状況	今後の予定	備考	
小山田エリア	1	里山を身近に体感するための場の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流回遊拠点を整備します</li> <li>②里山環境を活用する場を整備します</li> <li>③木材を活用できる場を提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流回遊拠点施設の機能の検討</li> <li>②里山環境を活用する場の選定、活用手法の検討</li> <li>③木材活用場の場の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流回遊拠点の整備 ・地域の住民とともにワークショップを開催し、小山田エリアにおける里山の現状と課題を踏まえた、交流回遊拠点施設の役割・機能について検討しています。(2023年3月、市として施設の役割や機能、整備候補地等の方向性を決定します)</li> <li>②里山環境を活用する場の整備 ・地域住民などにより民有地を活用した取組が行われている「小山田おこしの森(小山田小学校北側山林)」に隣接する市有山林を再生し、一体的な活用を図ることとしました。 ・「小山田おこしの森」に隣接する市有山林の再生に必要な伐採木や資材の搬入を行う作業路を整備するための測量を実施しました。</li> <li>③木材活用場の場の提供 ・木材の活用を図るために必要な設備や機能について企業へのヒアリングを実施しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流回遊拠点の整備 ・引き続き、地域住民や企業などと意見交換を行い、交流回遊拠点施設の基本構想を策定します。</li> <li>②里山環境を活用する場の整備 ・作業路の整備に向け、予備設計や地質調査などを行います。</li> <li>③木材活用場の提供 ・伐採した木材を貯める貯木場など必要な設備について、調査・検討します。 ・木材の加工品の販売や木工体験など、木材に触れ楽しむことができる場、交流回遊拠点施設の機能の一つとして検討します。 ・市内外の企業等へのヒアリングを実施し、木材の活用を効率的に行うための手法について検討します。</li> </ul>	
	2	農を活用した地域の賑わいゾーンの創出	—	調整	・地域の団体と協議し、野中谷戸周辺を候補地として選定。事業内容や事業実施の課題の洗い出しを行いました。	○	・野中谷戸周辺の賑わいゾーンの創出について、実現可能な事業内容と事業実施につながる課題解決の方策を地域団体とともに引き続き検討します。	
	3	地域の課題解決につながる取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境の保全につながる事業を実施します</li> <li>②(仮称)里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します</li> <li>③散策ルートの再整備とマップの作製に取り組みます</li> </ul>	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境の保全につながる事業の実施 ・「小山田おこしの森」において、地域の住民や団体、企業と連携し、小学生を対象としたイベント「里山体験クラブ2022冬」を企画しました。(天候不良により中止)</li> <li>・「鶴見川源流保水の森」において、クヌギの萌芽更新のための伐採などを体験イベントや里山を散策しヤブカンゾウ苗植え体験などのイベントを実施し、自然環境の保全や再生について学ぶ機会を提供しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境の保全につながる事業の実施 ・各団体が実施する事業が継続し、里山環境の持続可能な保全につながるよう、必要な支援を行います。</li> </ul>	

エリア	プロジェクト	取組	2022年度実施計画	実施内容	2022年度の進捗状況	今後の予定	備考
小野路エリア	1 竹林の再生と活用	—	実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに地域の2団体が、林野庁の交付金を活用し、竹林等の整備(合計約24,000㎡・民有地含む)に着手しました。</li> <li>宮崎県の企業および地域の団体と連携し、小野路エリアの竹(幼竹)を活用した加工食品(メンマ)を試作しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した事業の実施を図るため、事業の実施に必要な支援を行います。</li> <li>加工食品(メンマ)生産の事業化に向けて、企業や地域団体とともに課題の洗い出しを行い、課題解決に向けた方策を検討します。</li> </ul>	
	2 地域の課題解決につながる取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①散策ルートを再整備します</li> <li>②(仮称)里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します</li> </ul>	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①散策ルートの再整備</li> <li>林野庁の交付金を活用して竹林の再生・整備に取り組む団体において、散策ルートの整備に向けた竹林の再生に着手しました。</li> <li>「奈良ばい谷戸」において、田植えや稲刈り体験、さつま芋掘りやタケノコ掘りなどの体験イベントや里山の散策イベントを実施し、里山環境の再生や保全について学ぶ機会を提供しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>散策ルートの整備に向けて、団体の竹林の再生・整備の取組が継続できるよう、また、各団体が実施する事業が継続し、里山環境の持続可能な保全につながるよう、必要な支援を行います。</li> </ul>	
相原エリア	1 連携・協働の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の課題解決や里山の活用につながる体制づくりに取り組みます</li> <li>②地域で活動する若い世代との連携・協働のしくみづくりに取り組みます</li> </ul>	検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>相原エリアで活動する団体や相原中央公園、大地沢青少年センターから現在の取組状況や今後の事業展開などについて確認しました。現在も様々な団体が連携・協働し、多くの事業が行われていることがわかりましたが、体制づくりの検討には至りませんでした。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>相原エリアで活動する団体等の取組について、引き続き情報の収集に努め、各団体の取組が継続できるよう必要な支援を行い、エリアの幅広いが世代が連携・協働できるしくみづくりに向け検討を進めます。</li> </ul>	
	2 多様な主体の連携による里山活用の推進	—	検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>相原エリアの権現谷戸において、地域の団体に林野庁の交付金を活用支援を行い、竹林等の整備を行いました。</li> <li>大地沢青少年センターにおいて、地域の団体などと連携し、間伐体験や竹細工作り、ハイキングコースの散策など、里山環境を活用した数多くのイベントを実施しました。特に、11月に実施した「たいけん&amp;たんけん大地沢」には約800名の参加がありました。</li> <li>相原中央公園において、地域団体と連携し、伐採した木竹を炭や竹酢液などに加工して販売しました。また、地域の小学校と連携し、シイタケの榎木づくりを実施しました。</li> <li>相原中央公園において、近隣の美術大学と連携し、小学生以上を対象としたスケッチ教室を開催し14名の参加がありました。また、10月には相原中央公園芸術展を開催し2日間で延べ327名の来場がありました。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の管理者や大学、地域の団体等と連携し、里山資源の活用や里山に親しむことができるイベントが継続して開催できるよう必要な支援を行い、里山環境の活用を推進します。</li> </ul>	
三輪エリア	1 地域の取組や魅力・価値を共有できる関係づくり	—	検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕作が行われていない民有農地(約1,600㎡)を市内の社会福祉法人に斡旋しました。(2023年4月からの貸借を予定)</li> <li>三輪エリア内の「三輪緑地および周辺地」において、里山環境の再生や保全活動に取り組む団体からヒアリングを行い、現在の活動状況や課題を確認しましたが、地域の取組や魅力・価値を共有する関係づくりの検討には至りませんでした。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>三輪エリアで活動する団体の取組について、引き続き団体から情報の収集に努め、各団体が抱える課題の解決や取組が継続できるよう必要な支援を行い、エリアの魅力や価値を共有できる関係づくりに向け検討を進めます。</li> </ul>	